統合医療用語集

Glossary of Integrative Medicine

発行／一般社団法人
日本統合医療学会

ア行

Ay	アーマ	ama	未消化物のこと。胃で食物を消化するアグニが低下すると、身体のアーマが生成される。また食物だけでなく、生活において、心の経験を消化するアグニが低下している場合、心のアーマが生成され、精神的なストレスを抱えることになる。
Ay	アーユルヴェーダ	Ayurveda	インド大陸の伝統医学。サンスクリット語で生命をあらわすアーユスと、知識・智慧をあらわすヴェーダの複合語。「生命の智慧」「寿命の科学」などを意味する。医学はもとより、生活の智慧、哲学などの概念も含み、病気の治療と予防だけでなく、より善い人生を目指すことを特徴とし、身心魂の医学といわれる。
Ho	アイソパシー	isopathy	ある病気の治療をするために、その病気自体の原因物質や病気の過程で作られる産物に由来したホメオパシー薬を使用すること。
Ay	アグニ	agni	サンスクリット語で火を表す。消化や代謝を司る火のエネルギーの意。食物を消化するジャータラ・アグニをはじめ、13 種のアグニがあるとされる。アグニの働きが低下すると、食物の、7 つの組織（ダートゥ、別項参照）への変換が滞り、病気の引き金になる。アグニの消化は、食物のみならず、日常の出来事の対処、解消も含む。
Ch	アジャストメント	adjustment	長短どちらかのてこ原理を用い、特定の接触をもって直接関節へ働きかける手技の一型。その際、速度、振幅、方向をコントロールしたダイナミックなスラストを行うのが特徴である。カイロプラクターは通常、このような方法によって関節および神経生理学的機能に働きかける。
Ay	アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター	Ashtanga Hrdayam Samhita	チャラカ・サンヒター、スシュルタ・サンヒターとともに、アーユルヴェーダの三大経典（ブリハトライー）と呼ばれる。内科のチャラカ、外科のスシュルタをまとめ、編纂した内容とされる。その中で、総論編は三大医書の中でも最高傑作とされる。
Ay	アビヤンガ	abhyanga	オイルマッサージ法。温かい薬用ごま油などを用いて、全身をマッサージする。パンチャカルマ前処置の一つ。主にはヴァータの鎮静に有効とされる。
Hb	アメリカニンジン	Panax quinquefolius	ウコギ科の薬用植物の根を薬草として用いる。米国東部原産で、朝鮮人参と同様の滋養強壮作用があるが、涼性なのでほてりなどは起こりにくい。血糖調節に有用、アダプトゲンのハーブの一つ。安全性 1、相互作用 B。
Ho	アロパシー	allopathy	ハーネマンによってホメオパシーと比較して用いられた言葉。病気の症状へに直接関係しない作用をもたらす治療をさす。現在では従来の医療をさして用いられることもある。

Ar	アロマセラピー	aromatherapy	精油を使用した補完代替医療の一種で精油を使用した療法の総称。日本語では芳香療法と訳される。
Tm1	胃	stomach	六つの腑の一つで、食物を受け入れ消化を開始する。
Tm1	医食同源	homogeny of medicine and food	食物が病気の治療に役立つという考えで「薬食同源」から作られた造語。
Hb	イチョウ	Ginkgo biloba	イチョウ科の裸子植物。末梢循環改善、記憶改善作用が示されているが、ヒトでの定説はいまだなし。日本では医薬品として認証されていない（欧州では葉の抽出成分を医薬品として使用）。種子を銀杏として食用に供するが、大量摂取でビタミン B_6 不足を生じることがある。安全性 1 、相互作用 B。
Su	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律	Act on Securing Quality, Efficacy and Safety of Products Including Pharmaceuticals and Medical Devices	旧薬事法。平成 26 年 11 月 25 日の薬事法等の一部を改正する法律（平成 25 年法律第 84 号）の施行により、現行の題名に改められた。医薬品医療機器等法、薬機法と略される。
Tm1	陰	yin	中国の哲学におえる正反対の二つの宇宙の創造的な力のうち、暗闇・冷え・湿り気・受動性・分解などによって特徴づけられる女性的・潜在的・受動的な原理で、二つの力が融合すると知覚できる世界を生む。
Tm1	飲	retained fluid	体液代謝の異常により生じた透明で稀薄な病理産物で体液貯留とも呼ばれる。
Tm1	陰虚	yin deficiency	潤いの減少、鎮静、下降、陽を抑制する機能をもつ陰の欠乏によって特徴づけられる病理的変化；漢方医学では「陰」と「虚」は独立のものとして理解されている。
Tm1	陰虚 証	yin deficiency pattern/ syndrome	陰液や精の不足によって生じるパターン／症候群で、陽を抑制できず、るい痩、めまい、耳鳴り、舌やのどの乾燥、便秘、色の濃い尿、午後の発熱、胸部潮紅、寝汗、舌紅、少苔、速脈がみられる；漢方医学では不足パターンを伴う陰パターンと理解されている。
Tm1	陰 証	yin pattern/syndrome	陰の性質の病原に起因する病的状態と同様に抑制、機能低下、休止している、弱い徴候または内向きで下向きの症状を伴う内臓の冷えと虚証パターン／症候群の総称。
Tm2	飲食不節	dietary irregularities	内傷の病因に属し、不適切な食事や水分の摂取によって病気になる原因のこと。飲食量の過多（過食）と不足（飢餓）、不衛生な飲食物の摂取、偏食などがある。飲食物は胃が受け入れ、脾の働きで吸収されるために、飲食不節は脾胃に影響を与える。
Ay	インドリヤ	indriya	視覚（チャクシュ）、聴覚（シュロートラ）、嗅覚（グラーナ）、味覚（ラサナ）、触覚（スパルシャナ）の 5 つの感覚器官またはその機能。感覚の使い過ぎ、使わな過ぎが、感覚の障害の原因となる。さらに感覚を感じとる対象も健全でないと（残酷な場面を見る、汚いことばを聞くなど）、感覚機能低下の原因となる。

Tm2	陰陽（いんよう）	yin and yang	自然や人体に関する全ての事象を、陰と陽の対立と統一で捉える学説で、古代中国で伝承されてきた。上下、内外、先後、動静、速遅、表裏、寒熱、盛衰、清濁などを意味する。陰陽は単に相対ではなく、双方だけで成立し単独だけでは成立しない。陰陽は時間を追って交流と交代などの変化する要素も持っている。
Ay	ヴァータ	vata	風のエネルギー。パンチャマハブータ（別項参照）のうち、空と風の要素により形成される。ヴァータは、身体の運動や機能に必要であり、生命現象を司る。軽さ、動き、冷たさなどを特徴とし、ヴァータの乱れによる疾患としては、頭痛や各神経痛、冷え性、内耳疾患、皮膚乾燥など。主な対処法として、ごま油により乾・冷を鎮静化する。
Ay	ヴィクリティ	vikrti	ドーシャバランスからのずれ、または過剰になった部分を指す。季節、生活習慣などにより常に変動する。ヴィクリティを増やさない生活が、すなわち健康的な生活、生き方といえる。
Hb	ウコン	Curcuma long/ Turmeric	インド原産の多年草、根茎に黄色のクルクミンを含有する。染料やスパイスとして使用される。カレーの黄色もウコンの色である。鉄を含有するため、鉄制限されている肝疾患の患者には要注意。肝機能強化、利胆、消炎作用。安全性１、相互作用 B。
Su	栄養機能食品（えいよう き のうしょくひん）	Foods with Nutrient Function Claims (FNFC)	栄養機能食品とは、特定の栄養成分の補給のために利用される食品で、栄養成分の機能を表示するもの。対象は、ビタミン、ミネラル、オメガ３系必須脂肪酸であり、栄養機能食品として機能の表示を行うには、１日当たりの摂取目安量に含まれる栄養成分量が、国が定めた下限･上限値の基準に適合していることが必要。
Su	栄養補助食品健康教育法（えいよう ほ じょしょくひんけんこうきょういくほう）（DSHEA）	Dietary Supplement Health and Education Act of 1994	1994 年制定の米国の健康食品関連制度に関連する法律。
Hb	エキナセア	Echinacea purpurea	キク科ムラサキバレンギクをハーブティとして用いることがない。北米先住民の民間療法に使用。抗ウィルス作用、抗菌作用、消炎、免疫賦活作用があるとされる。一部のアレルギー患者には要注意。安全性１、相互作用 A。
Ar	エストロゲン	estrogen	雌性動物に発情現象を起こす天然および合成物質の総称で性ステロイドホルモンに属する。主に卵巣から分泌される。その他、精巣や副腎皮質からも分泌される。
Hb	エゾウコギ（シベリアニンジン）	Eleutherococcus senticosus	ウコギ科の薬用植物で、根皮を生薬の五加皮として使用する。オタネニンジンの成分に類似のサポニン類を含有する。アダプトゲン、疲労回復。安全性１、相互作用 A。
Ar	エッセンシャルオイル	essential oil	精油のこと。植物材料（花・果実・葉・幹部・根・樹皮など）を水蒸気蒸留や圧搾、あるいは有機溶媒抽出することにより得られた芳香を持つ油。

Su	エピジェネティクス	epigenetics	DNA 配列変化よらずに、遺伝子発現を制御・伝達するシステム（およびその学術分野）。メカニズムは、DNA メチル化（DNA 塩基のメチル化による遺伝子発現の変化）と、ヒストン修飾（ヒストンのメチル化、アセチル化、リン酸化などの化学修飾による遺伝子発現の変化）。遺伝因子と環境因子の架け橋となるメカニズム。
Hb	エフェドラ（麻黄）	Ephedra	マオウ科マオウ属の地上茎を乾燥させたもの。漢方でも「麻黄」として葛根湯、麻黄湯などに使用される。エフェドリンが主成分で、交感神経興奮による食欲低下に着目し、米国ではダイエットハーブとして使用されているが、死亡例がある。鎮咳、気管支拡張、交感神経・中枢興奮作用、発汗作用。2004 年より米国ではエフェドリンを含むダイエットのサプリメントの販売を FDA が禁止した。（https://nccih.nih.gov/health/ephedra）
Ar	エフルラージュ	effleuraga	軽擦法というトリートメントの手技をいう。手掌全体を肌に密着させてゆっくりなでる手技のこと。
Ay	オージャス	ojas	元気の素、活力素の意。オージャスにより、ドーシャのバランスを維持し、ダートゥ（別項参照）の変換を助け、免疫力を高めるとされる。オージャスを低下・減少させる原因としては、偏った食事、夜更かし、過度な運動などの生活習慣、悲しみや恐れなどの感情など、さまざまなものがある。
Su	オーラルフレイル	oral frailty	口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体的フレイルの一つ。フレイルと同様に、健康と機能障害との中間にあり、可逆的であることが特徴。滑舌低下、食べこぼし、わずかなむせ、かめない食品が増える、口の乾燥といった口腔機能の低下による症状から始まる。早期に対策することで、健康寿命の延伸につながる。
Tm1	瘀血（おけつ）	static blood	出血、緩慢な流れの血や内臓に停滞した血を含む血瘀の病理産物で、うっ血や血瘀と同様に病気の原因になる場合がある。
Su	オメガ３系必須脂肪酸（けいひっすしぼうさん）	omega-3 essential fatty acid	抗炎症作用を介して、生活習慣病を予防する。えごまや亜麻仁油などのα-リノレン酸、魚油に多い EPA（エイコサペンタエン酸）、DHA（ドコサヘキサエン酸）がある。なお、α-リノレン酸から EPA、DHA への体内での変換効率は低いため、えごま油や亜麻仁油が魚油の代わりになるわけではない。
Su	オメガ６系必須脂肪酸（けいひっすしぼうさん）	omega-6 essential fatty acid	オメガ６系必須脂肪酸は、リノール酸やアラキドン酸が代表的である。炎症を惹起することから、過剰摂取は避けるべきである。コーン油、大豆油、綿実油、グレープシードオイルなど広く食用油に含まれている。

Hb	オリーブ	Olive/ Olea europaea	モクセイ科の常緑樹、果実を食用にする。不飽和脂肪酸を含むオイルが得られる。瀉下作用あり。抗酸化、抗菌、血糖コントロール、血清コレステロール低下作用。（https://www.webmd.com/vitamins/ai/ingredientmono-233/olive）
Ho	オルガノン	Organon	ギリシャ語で「器官」という意味。ハーネマンの著作で、その内容はホメオパシー医学の基礎的な理論体系と原則。1810 年から 1842 年にかけて出版され第六版までがある。

カ行

Hb	ガーリック	Garlic/ Allium sativum	ヒガンバナ科ネギ属の多年草の球根を食用にする。ビタミン B1 の効果を高めるアリシンを含有。過剰摂取で胃腸障害生じる。大腸がん予防効果があるとされる。強壮、抗酸化、抗菌血小板凝集抑制作用。安全性 1、相互作用 C。
Hb	カイエンペッパー	Cayenne pepper/ Capsicum frutescens	赤トウガラシの粉末をスパイスとして使用する。キダチトウガラシを使用したものが本物であるという説もある。健胃、鎮痛、末梢循環改善作用があるとされる。安全性 1、相互作用 A。
Tm2	外感（がいかん）	external contraction	外界から病を起こす病因の総称。体外から病因が体内に侵入し、体内に影響を及ぼすこと。外感には六淫（風、寒、暑、湿、燥、火）と疫癘がある。六淫や疫癘などに感受して発病することを外感病という。六淫や疫癘は、人体の皮毛、肌肉を侵襲したり、口、鼻から吸入して体内に侵入して、病を引き起こす。
Ch	カイロプラクター	chiropractor	カイロプラクティックの施術者。法的資格制度のある国では、ドクター・オブ・カイロプラクティック (Doctor of Chiropractic) とも呼ばれる。
Ch	カイロプラクティック	chiropractic	筋骨格系の構造的な障害を診断、治療、予防する専門職であり、その効果は、神経系の機能や健康全般に及ぶ。脊椎アジャストメントやその他の関節や軟部組織に対するマニピュレーションといった徒手的な治療を重視する（世界カイロプラクティック連合による定義）。
Ho	活性化（かっせいか）	potentisation	ホメオパシー薬の効力（ポテンシー）を引き出す段階的なプロセス。振盪を伴う連続希釈や粉砕および流動法などの方法がある。
Ch	可動触診（かどうしょくしん）	motion palpation	自動あるいは他動運動させながら関節運動を評価する触診。
Hb	カバ（カヴァ）	Cava/ Piper methysticum	南太平洋に生息するコショウ科の灌木の根を粉末にしたもの。重篤な肝障害などの被害が発生したため、国内では使用を厳しく監視している。ベンゾジアゼピンに似た鎮静、抗不安作用があるとされる。安全性 2 b、2 c、相互作用 B。

Ay	カパ	kapha	トリドーシャの中の、水のエネルギー。パンチャマハブータ（別項参照）のうち、水と地の要素で構成される。正常なカパはオージャス（活力素）となるが、増大するとマラ（老廃物）となり、病気の原因となる。カパは結合、滋養、安定をもたらし、粘性を特徴とする。肥満、鼻炎、糖尿病や各種ガン、うつなど、現代に多い慢性疾患がカパの乱れによる。
Su	カロテノイド	carotenoid	カロテノイドは、植物の色素を構成するファイトケミカルの一種であり、αカロテンやβカロテン、リコピン、ルテイン／ゼアキサンチンなど数百種類が知られている。抗酸化作用や抗炎症作用を介した生活習慣病の予防効果が報告されてきた。
Tm1	肝（かん）	liver	横隔膜の下の右の季肋部に位置する器官で、血を貯蔵し、気の流れを促進し、腱と目の機能に密接に影響する。
Tm1	韓医学（かんいがく）	traditional Korean medicine	古代中国の医学に基づいて韓国で伝統的に行われている医学で、主に体質の面からのアプローチを行う。
Tm1	寒証（かんしょう）	cold pattern/ syndrome	外感寒邪や陽虚によって引き起こされたパターン／症候群の一般用語で、冷えを嫌い、喜温を伴う冷痛、口渇の欠如、薄い透明な痰と鼻粘液、清澄尿の長い排泄、下痢、白い顔色、白苔の白っぽい舌、堅いまたは緩徐な脈拍がみられる。
Tm2	間接灸（かんせつきゅう）	indirect moxibustion	艾（もぐさ）を皮膚に直接置かず、皮膚と艾の間に介在物（薄めに切った生姜や大蒜、あるいは味噌、塩、水で湿らした紙など）の上に艾を置いてして点火し、燃焼させる灸法。中国では間接灸の分類が異なる。日本では、瘢痕の有無により有痕灸と無痕灸に大別し、間接灸は無痕灸に分類される。
Ay	ガンドゥーシャ	gandusa	アーユルヴェーダにおける含嗽法。各ドーシャの乱れによる疾患に対して、４つの種類がある。ヴァータ性疾患には油性含嗽法（スニグダ）、ピッタ性疾患には鎮静用含嗽法（シャマナ）、カパ性疾患には浄化用含嗽法（ショーダナ）、創傷には治癒促進用含嗽法（ローパナ）とを用いる。
Tm1	寒熱（かんねつ）	cold and heat	(1) 病の性質を鑑別するための一対の原理：陰が多いと冷え、陽が優勢だと熱；(2) 悪寒と発熱
Tm1	漢方（かんぽう）、漢方医学（かんぽういがく）	Kampo medicine	古代中国の医学に基づいて日本で伝統的に行われている医学。
Tm1	気（き）	qi, chi	宇宙を構成して、その運動・変化と変換を通して、世界（人体と人生活動を含む）のすべてを生じる基本的な要素。医学の分野では、気は、人体の範囲内で流れる微細な栄養物質にならびにその機能的な活動を示す。

Ay	ギー	ghee	アーユルヴェーダで汎用される、無塩バターを温めて水分を蒸発させ、沈殿物を濾して作る純粋な油。古典においても、すべての油脂類の中で最も素晴らしく、多くの効果を発揮するとされる。飲食用だけでなく、ネトラタルパナ（眼に施す栄養油剤欲法）などの処置にも用いられる。
Tm1	気虚（ききょ）	qi deficiency	内臓機能や体の抵抗力の低下をまねく気の不足の一般用語。
Tm2	奇経（きけい）（奇経八脈（きけいはちみゃく））	eight extra meridians	十二正経に対して異なった作用を持つ経脈で、六臓六腑と連絡しない。機能は十二正経の気血の過不足を補正する働きを持つ。奇経には督脈・任脈・衝脈・帯脈・陽蹻脈・陰蹻脈・陽維脈・陰維脈の八脈がある。
Tm2	奇穴（きけつ）	extra point	奇穴は経脈に所属しない腧穴（ツボ）のこと。
Tm2	気血水（きけつすい）（津液（しんえき））病証（びょうしょう）	qi-blood-fluid-humor disease pattern	気、血、水（津液）が異常となって起こる病証。人体が生理機能を維持していく上で、気、血、水は必要なものである。主に内傷の病因（七情の乱れ、飲食不節、労働過度、安逸過度、房事過多など）により、気、血、津液の不足や停滞を生じる。気血水（津液）病証の異常は臓腑機能とも関連が深く、臓腑病証を合わせて判断することが多い。
Tm1	気滞（きたい）	qi stagnation	気の動きが妨げられることで臓器の機能障害が起こり、患部に張る感じや痛みを生じる病理的変化。
Ho	キナ皮（かわ）の実験（じっけん）	cinchona bark experiment	ハーネマンは 1790 年、マラリアの治療薬と知られていたキナの樹皮 4 ドラムを自分で服用したところ、マラリアと類似した症状が起こり、その後症状が消失するのを体験した。この体験から薬によって治療される症状と、健康な生体に薬が引き起こす症状との類似性を認めた。
Su	機能性食品（きのうせいしょくひん）	functional food	従来の必須栄養素とは異なり、疾病予防・リスク低減に有用な食品の成分が見出されてきた。各国で健康協調表示（ヘルスクレーム）に関する制度が整備されてきた。日本では、保健機能食品制度があり、「特定保健用食品（トクホ）」、「栄養機能食品」、「機能性表示食品」がある。一般食品として、いわゆる健康食品がある。
Su	機能性表示食品（きのうせいひょうじしょくひん）	Foods with Function Claims	事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品。保健機能食品制度の下で、特定保健用食品（トクホ）、栄養機能食品とは異なる、新しいカテゴリーとして開始された。科学的根拠として、最終製品を用いた臨床試験、あるいは、関与成分についての系統的レビューに基づいたデータが公表されている。
Ho	奇妙（きみょう）で、稀（まれ）な、特有（とくゆう）の症状（しょうじょう）	strange, rare and paticuar symptoms(SRP)	ホメオパシーの症例分析で重要となる。患者の個別的な症状で、普通ではなく、風変わりな症状。

Ar	キャリアオイル	carrier oil	精油を希釈する植物油のこと。精油は濃縮されたもので一部の精油を除いては原液を使用することはない。塗布やトリートメントに使うときには植物油に希釈して使用する。
Tm2	灸（きゅう）	moxibustion	古代中国で体系化され、伝承された医術の一つ。灸は植物のヨモギから作られた艾（モグサ）を皮膚に載せて燃焼させる温熱療法である。灸により小さな熱傷を作る有痕灸と熱傷を作らない無痕灸がある。電気を用いる器械灸などもある。
Tm1	虚（きょ）	deficiency	(1) 健常な気の不足；(2) 弱い体質；(3) 病原に対する弱い反応
Tm2	虚実（きょじつ）	deficiency and excess	虚は不足や機能の低下のこと。実とは有余や停滞あるいは機能の亢進のこと。正気が不足していれば虚証とし、邪気が盛んであれば実証とする。正邪の盛衰の状態を判断する。この判断に対する治療方法として、虚証には補法、実証には瀉法を行う。
Tm1	虚証（きょしょう）	deficiency pattern/ syndrome	健常な気の不足（陰、陽、気と血の不足を含む）に起因するパターン／症候群の一般用語。
Ay	クシャーラ・スートラ	kshara sutra	薬草成分を含む糸による痔瘻の治療法。日本において、アーユルヴェーダ医学が臨床応用され、高い評価を受けた外科治療。
Hb	クミン	Cuminum cyminum L.	セリ科の１年性草本。果実（種子）をスパイスとして使用。俗に、「鼓腸によい」「消化器系全体によい」といわれるが、ヒトでのエビデンスは確立されていない。止瀉、抗疝痛、腹部膨満、利尿作用があるとされる。抗糖尿病薬との相互作用の可能性がいわれている。（https://www.webmd.com/vitamins/ai/ingredientmono-635/cumin）
Hb	クランベリー	Cranberry/ Vaccinium macrocarpon	北アメリカ原産のツツジ科の常緑蔓性植物。実を食用に供する。クランベリーの実と葉は、創傷、尿路系疾患、下痢、糖尿病、胃腸障害や肝臓障害等に使用。尿路感染、抗酸化作用、抗菌作用（H. ピロリ）を示すとされる。大量摂取で胃腸障害の報告あり。安全性１、相互作用 A。（http://www.ejim.ncgg.go.jp/pro/overseas/c04/13.html）
Ar	グレープシードオイル	grapeseed oil	ぶどうの種子から得られる油脂、植物油の一種。コレステロールを含まず、オレイン酸やリノール酸が豊富でトコフェロールも含まれる、アロマセラピーではキャリアオイルとして利用される。無味無臭で焦げにくい特徴があり健康食品としても注目されている。
Hb	クローブ	Syzygium aromaticum/ Clove	フトモモ科チョウジノキの花蕾。香辛料として用いられる。生薬としては丁香といい、健胃薬として用いられる。抗菌、鎮静、局所麻酔作用があるとされる。肝障害、凝固異常を持つ人への使用は要注意。安全性２d、相互作用 A。

Tm2	経筋病証（けいきんびょうしょう）	meridian sinew disease pattern	筋系統に関する病証。経筋の流注上における運動時に生じる引きつり、つっぱり、痛み、痙攣を呈する病証。運動負荷を加えると損傷した経筋の走行で症状が再現する。また障害部位と関連する経筋に関係する滎穴・兪穴・阿是穴に緊張や圧痛を認めやすく、その部分に刺鍼をすると効果が期待できる。
Tm2	経穴（けいけつ）	meridian point	経穴は、経脈上にある穴（ツボ）のこと。経穴にはWHO西太平洋地域事務局で決定した361穴が世界共通となっている。
Tm2	経脈病証（けいみゃくびょうしょう）	meridian disease pattern	経脈に関する病証。外邪の侵襲、内傷（七情の乱れ、労逸、飲食不節など）により、経脈にある気血が失調するあるいは停滞が起こり、経脈が循行する部位に反応や症状が生じる病証。また経脈が関連する臓腑の異常があれば経脈に影響を与えて現れる症状も経脈病証に含めている。
Tm2	経絡（けいらく）	meridian and collateral	古代中国で考えられた身体の内部（臓腑）と体表をつなぐルートである。気血が通り、全身を循環して身体を維持する。また臓腑と関連が深く、臓腑の状態が経絡にも反映される。狭義に経絡は経脈と絡脈に分かれ、経脈に正経十二経脈、奇経八脈、十二経別がある。広義に経絡系統として経絡、十二経筋、十二皮部としている。
Tm2	経絡治療（けいらくちりょう）	meridian treatment	1940年前後の日本で開発された鍼灸治療体系である。十二経脈の虚実を六部定位脈診によって判定し、『難経』を参考に手足の要穴に用いて治療する。経絡を軸とする全身的な病態像に基づく鍼灸治療は本治法、それ以外の局所などの鍼灸治療は標治法としている。経絡治療が主に虚証の病態を治療し、刺法は浅刺の傾向である。
Tm1	血（けつ）	blood	血管を循環している赤い液体で全身を養い、湿らせる。
Ar	血液脳関門（けつえきのうかんもん）	blood-brain barrier	血液と脳（そして脊髄を含む中枢神経系）の組織液との間の物質交換を制限する機構。
Tm1	血瘀（けつお）	blood stasis	気の緩慢な流れや気虚、血虚、外傷、陰寒によって引き起こされる体の部位の血の滞りの病理的変化。
Tm1	血虚（けっきょ）	blood deficiency	臓腑・組織、経絡を栄養する血が不足するあらゆる病理的変化。
Su	健康寿命（けんこうじゅみょう）	healthy life expectancy	健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義（健康日本21第2次）。概念は、2000年にＷＨＯが提唱した。各国により測定基準が異なる。日本では、国民生活基礎調査から算出。健康寿命と平均寿命の差は、2016年の時点で、男性8.84年、女性12.35年であった。

Su	健康食品（けんこうしょくひん）	health foods	一般に、健康食品は、健康の保持や増進に有用であるとされる食品全般をさす。法的な定義はなく、食品に分類。保健機能食品制度に基づく保健機能食品（特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品）とそれ以外の健康食品に分けられる。「いわゆる健康食品」は行政用語であり、一般食品における健康食品を指すことが多い。
Tm2	毫鍼（ごうしん）	filiform needle	毫鍼は現在使用されている鍼で最も多い。鍼体は細い円柱形で先端が尖っている。鍼の先端は先が僅かに丸くなっている形状などがある。長さは３～６cm のタイプが頻用され、材料には主にステンレス綱金、金や銀の合金などを用いる。現在では感染防止のためにディスポーザブル鍼が主流となっている。
Tm1	五行（ごぎょう）	five phases	木火土金水という五つの状態のことで、それらの動きや変化を指し、「五つの要素」とも表現される。
Tm1	五行学説（ごぎょうがくせつ）	five phases theory	木火土金水という五つの要素の性質と抑制―生成する関係に要約される自然界の組成と進化に関する古代中国医学の哲学的理論の一つで、指導的理論、生理学・病理学・臨床診断・治療の方法を示す。
Ar	ココナッツオイル	coconut oil	ココヤシの種子から採油される油脂。飽和脂肪酸が多く含まれ、空気にさらされても安定性を保つ。皮膚を冷やし保護し安定化させる。
Tm1	後世派（ごせいは）	Gosei school	主として五行（木火土金水）と経絡理論を信頼する日本の漢方医学の流派。
Tm1	古方派（こほうは）	Koho school	傷寒論医学を主唱し、腹診や方証相対を強調する漢方医学の流派。
Ar	小麦胚芽油（こむぎはいがゆ）	wheatgerm	小麦の胚芽から圧搾法で採油される油脂。トコフェロール（ビタミン E）を豊富に含み、抗酸化作用を利用して酸化しやすいキャリアオイルに 10％程度混入して酸化防止に使用される。皮膚を柔軟にする作用があり、会陰マッサージオイルなどに利用される。
Ho	混合レメディ（こんごう）	combination remedies	複合レメディ（complex remedies）とも言う。１つ以上のストックから調製されたホメオパシー薬を、２剤またはそれ以上を混合し１つの剤形としたもの。
Hb	コンフリー	Symphytum officinale/ Confrey	ムラサキ科ヒレハリソウ属の多年生草。含有成分であるピロリジジンアルカロイドのエチミジン（echimidine）により、肝障害を起こす可能性があり、大量摂取は勧められない。創傷治癒、口内炎。安全性２a、胎盤をとおして胎児に影響がある可能性のため、妊娠中・授乳中は使用しない。相互作用 A。
Ho	コンプリート・シムプトム	complete symptom	患者の症状の中で重要な症状(多くは主訴となる症状)の、原因は何か、部位は、どのような感覚があるか、症状のモダリティについて、さらに随伴症状をさす。

サ行

Ho	最小限の投与量（さいしょうげんとうよりょう）	minimum dose	期待する治療効果の得られるホメオパシー薬の最小限の投与量。
Hb	サイリウム（車前子）	Plantago psyllium	オオバコの種子。プランタギニンというフラボノドイド、イリドイド配糖体のアウクビンを含有、鎮咳、利水作用示す。脂質吸収抑制、緩下作用がある。安全性２d、相互作用 A。
Ho	最類似（さいるいじ）	simillimum	患者の症状全体をひとつのパターンとしてとらえ、それに最も類似のパターンをもつホメオパシー薬のレメディ像。それは患者の臨床的特徴とホメオパシー薬のマテリア・メディカの最も正確な適合をさす。
Hb	サフラン	Saffran/ Crocus sativus	アヤメ科の多年草で、めしべを香辛料や薬用に使用する。クロシン、ピクロクロシンが含有される。観賞用のものがクロッカス。血行促進、鎮静、通経、冷え症などに効果ありとされる。多量に摂取すると出血傾向が出現することもある。安全性２b（妊娠中禁）、相互作用 A。
Tm1	三焦（さんしょう）	triple energizers	三つの体腔の総称で、これを通して内臓の気が変化する。
Tm1	四象医学（しょういがく）	four-constitution medicine	韓国の李朝末期に李済馬（イ・ジェンマ：1837～1900）が『東医寿世保元』（1894）を発表して提唱した体質医学で、人を大きく四つの体質に分ける。それぞれの体質ごとに生理学、病理学、診断、健康維持法を示した。
Tm2	四診（ししん）	four examinations	望診（視診）・聞診（聴診と嗅診）・問診・切診（触診）の四つの診察法のことを示す。この四つの診察法は診察者の感覚を用いて、病証や病を判断する。また四つの診察法の所見から、病の原因や病理を検討し、病証や病を判断する。
Tm1	実（じつ）	excess	(1) 病原となる気の過剰；(2) 強い体質；(3) 病原に対する強い反応
Tm1	実証（じつしょう）	excess pattern/ syndrome	六つの不摂生（有害な病原、寄生虫と毒素）のような外部の病原となる要因、または体内の機能不全による蓄積された病理産物（たとえば痰、保持された体液、水、湿、膿、瘀血と食積）に起因するパターン／症候群の一般用語。
Hb	シナモン	Cinnamomum	クスノキ科シナモン属の樹皮を乾燥したもの。肉桂（ニッキ）とも呼ぶスパイスとして用いる。生薬としては桂皮。クマリンやケイヒアルデヒドを含有の種、多量摂取で肝障害生じる可能性がある。消化機能促進、血糖調節、抗菌、駆風作用がある。安全性２b（妊娠中禁）、相互作用 A。

Hb	ジャーマンカモミール	German chamomile/ Matricaria recutita	キク科植物の花弁をハーブティ等に使用。和名はカミツレ。健胃･発汗･消炎作用､婦人病などに用いられる。消炎、鎮痛、鎮静、鎮痙、駆風、口内炎（外用）に効果があるとされる。成分のルテオリンはエンドセリン阻害作用がある。安全性１、相互作用 A。
Ay	シャーラーキャ・タントラム	shalakya tantram	アーユルヴェーダでは、専門分野が８つに分かれており、その中の頭頸部、鎖骨より上の部位をあつかう科。現代医学の耳鼻咽喉科、眼科、歯科などを含む概念。シャーラーキャは棒状の治療器具を指す。他の７科には、現代医学にも通じる、内科、外科、解毒科、精神（鬼神）科、小児・産婦人科、強壮科、強精科がある。
Tm2	十二経筋（じゅうにけいきん）	twelve meridian sinew	十二経脈の分布に沿った筋肉系の経絡系統のことで、筋肉の運動機能を主る。経筋はいずれも四肢末端から起こり、体幹・頭部へと上行して、経脈のように臓腑につながらない。経筋に異常が生じると筋痛、引きつり、突っ張りなどの症状が発症する。
Tm2	十二経脈（正経）（じゅうにけいみゃく（せいけい））	twelve meridians	正経十二経脈、十二正経ともいう。経絡系統では主体であり六臓六腑とつながり、十二経脈は経穴を持っている。十二経脈は陽経と陰経があり、陽経は陽明・太陽・少陽、陰経は太陰・少陰・厥陰に分けられる。
Ar	揉捏法（じゅうねつほう）	kneading	トリートメント手技の一つで、深部組織をもみほぐす手技のこと。
Ho	従来の医療（じゅうらいのいりょう）	conventional medicine	近代西洋医学にもとづく医療。別な意味で、正統あるいは主流の医学として知られている。
Tm2	腧穴（しゅけつ）	acupuncture points	いわゆる穴（ツボ）の総称として用いる。腧穴には経穴、奇穴、阿是穴がある。経穴は経脈上にある穴、奇穴は経脈に所属しない穴である。また阿是穴は経穴や奇穴以外で、按じて痛む・気持ちのよい所、単に痛む所をいう。
Tm1	証（しょう）	pattern/syndrome	(1) 病のある段階における、病の部位・原因・性質・進行などを含む病理的変化の最終的診断；(2) 適切な治療を提案する状態；(3) 個人に特有の状態
Tm1	少陰人（しょういんじん）	lesser yin person	四象医学の体質の一つで、腎が強く脾が弱い特徴がある。
Ho	症状の階層性（しょうじょうのかいそうせい）	hierarchy of symptoms	ホメオパシーにおいて、患者の症状の中で個別性の高さ（奇妙で、稀な、特有の症状：SRP）や相対的な重要性（精神症状、全身症状、局所症状）に従って症状を順に配列すること。症例分析や処方に用いる。
Tm1	小腸（しょうちょう）	small intestin	六つの腑の一つで、胃からの食物を受け入れ、栄養分と水を消化吸収する。

Tm2	小児鍼（しょうにしん）	infant needle	小児の皮膚に軽微な接触刺激を行うもの。種類は鍼先を軽く皮膚に接触する鍼（接触鍼）、皮膚を摩擦する鍼（摩擦鍼）、皮膚をごく僅かに刺す鍼（切皮鍼）がある。主に生後１カ月～約６歳までに用いるが、成人にも活用される。適応は主に自律神経の失調などである。治療時間は約５～10分で軽く発赤する程度の刺激量とする。
Tm1	少陽人（しょうようじん）	lesser yang person	四象医学の体質の一つで、脾が強く腎が弱い特徴がある。
Ay	シローダーラー	shirodhara	アビヤンガの後に行う滴下法のこと。適温に温めたごま油、薬用オイル、煎じ液などを、額や前額面、頭部に垂らす施術。主に、ヴァータ、ピッタを鎮静化させるとされる。
Tm1	心（しん）	heart	血液循環と精神活動を制御する横隔膜より上の胸腔に位置する器官。
Tm2	神（しん）	mind	神の広義は人体の生命活動を示す。生命活動が外部に現れたものをいい、精神・意識・顔色・眼光・言語の応答・身体の動きの状態などが含まれる。神が失調すると、神が精神活動の統率・制御ができず、意識が混濁し、発語・行動・情動に異常が現れる。狭義では思惟・意識活動を示す。五臓では心と関連が深い。
Tm1	腎（じん）	kidney	腰部に位置する一対の器官で、生命維持に必須のエッセンスを宿し、生長・発育・生殖・泌尿器の働きを促し、骨・髄・脳の活動・聴覚・吸気に直接的な影響を及ぼす。
Tm1	津液（しんえき）／水（すい）	fluid and humor	血以外の体の各種の正常な液体の一般用語で体液として知られる。
Tm2	鍼管（しんかん）	needle with tube	毫鍼を皮膚に刺す際に用いる管のこと。鍼を管に入れて刺すと、刺す痛みが緩和するため、現在は管を用いた刺入法（管鍼法）が主流である。管鍼法は江戸時代初期の杉山和一が発明した。鍼管は毫鍼の全長より約3.5～5mmほど短く、材質はステンレスが多い。ディスポーザブル鍼では主に合成樹脂などが用いられる。
Hb	ジンジャー（生姜）	Ginger/ Zingiber officinale	ショウガ科の多年草、スパイスや生薬として用いられてきた。根茎にギンゲオール、ショウガオール、ジンゲロンなどの辛味や匂い成分を含む。消化促進、利胆、制吐、消炎鎮痛、抗菌作用、強心作用があるとされる。安全性１、相互作用B。
Ho	振盪（しんとう）	succession	ホメオパシーのポテンシーの製造過程、希釈の各段階で行われる手技。激しく振ること、もしくは「弾性衝撃」を与えて、力強く振ること。
Ar	振動法（しんどうほう）	vibration	トリートメント手技の一つで、組織に振動を与える手技のこと。
Tm1	心包（しんぽう）	pericandium	心嚢を含む心の外側の被包。
Ar	親油性（しんゆせい）	lipophilic	油に溶けやすい性質のこと。

Ar	水蒸気蒸留法（間接法）	water distillation	水溶性の芳香成分が多く含まれる精油を抽出する場合に用いられる蒸留法。蒸留釜に芳香材料と水を入れて煮沸すると、原料に含まれる精油は揮発して水蒸気とともに蒸発する、それを冷却水で冷やすと精油を含んだ芳香蒸留水が得られ、分離機で分離して精油を得る。
Ar	水蒸気蒸留法（直接法）	steam distillation	一般的に行われる精油の抽出方法。蒸留釜に芳香原料を詰めて、釜の底から水蒸気を吹き込み蒸す、原料に含まれる精油は揮発して水蒸気とともに蒸発する、これを冷却槽で冷やすと芳香蒸留水が得られ、最後に表面に浮いた精油を分離する。
Ay	スウェーダナ	svedana	アーユルヴェーダにおける発汗法。ヴァータ、カパを鎮静化させる。発汗法の材料により種類分けされる。
Ar	スクワラン	squalane	化粧品に使われる油脂の一種。オリーブの果実から採油される。無色透明でのびがよく、浸透性に優れ、肌をしっとり潤す、キャリアオイルとしても使われる。
Ay	スシュルタ・サンヒター	Sushruta Samhita	チャラカ・サンヒターと並ぶアーユルヴェーダ医書。年代は同医書よりも後代で、内容は、外科的知識を主とする。アーユルヴェーダでは外科手術にも長けており、その技術は中国医学にも伝わったとされる。開頭術、骨折脱臼整復、結石、痔・痔瘻、緑内障などの手術に加え、造鼻術などの形成術にも優れた知識を説いている。
Ch	スラスト	thrust	方向をコントロールしながら高速かつ低振幅の瞬間的な外力を関節に加える技法。
Ay	スロータス	srotas	アーユルヴェーダにおいて、食物が、摂取後に消化・吸収され、肉体や精神機能を司る組織に、栄養を送るための管、身体経路。現代医学における、消化管、血管、リンパ管など単一の管を指す概念ではない。スロータスの障害により、各ドーシャの蓄積、拡散などの結果、病気が生じると考えられる。
Tm1	精	essence	(1) 人体の物理的な構造を構築して、体機能を維持する基本的な物質；(2) 腎臓に貯蔵される生殖に必要不可欠なもの。
Tm1	整体観念	holism	生体の全体が外界と統合されているという哲学的考え方の一つ。
Ch	静的触診	static palpation	静止姿勢の患者の骨や軟部組織に対して行う触診。
Ho	生命力	life force (vital force)	物質である有機体に命を吹き込んで動かす力、動力、エネルギーで、形而上学の概念といえる。
Ar	精油	essential oil	エッセンシャルオイルと同意。
Hb	セージ	Common sage/ Salvia officinalis	シソ科アキギリ属の多年草、葉を香辛料として使用する。抗酸化作用が強い。抗菌、抗真菌、抗ウィルス、収斂、発汗抑制、母乳分泌抑制作用があるとされる。長期使用は神経系に影響する可能性あり。安全性２b（妊娠中禁）、２d（用量超えない）、相互作用 A。

Ch	脊椎マニピュレーション	spinal manipulation	解剖学的可動域（他動的可動域）の限界を超えることなく生理的可動域（自動的可動域）を超えて関節を動かす手技の総称。脊椎関節へのアジャストメントや脊椎モビリゼーションを含む。
Ch	脊椎モビリゼーション	spinal mobilization	深さと速度をコントロールしながら徐々に脊椎関節を大きく動かすことで関節の可動域を改善させる手技。スラストの技法は使わない。
Tm2	切経	meridian palpation	切診の一つで、経脈上の皮膚や皮下の状態を手指で触れて診る方法。主に各経脈が流注する肘関節から指先まで、膝関節から足趾までを手指で軽く触れたり、按じて診る。また診察者の第１指と第２指で皮膚をつまんで、痛みの有無や皮膚の状態から、異常のある経脈を明らかにする診察法（撮診法）もある。
Tm2	切穴（経穴診）	acupuncture point palpation	穴（ツボ）を触れて診察することで、臓腑・経絡の異常を診断することができる。穴の反応には、軽く触れると熱感や冷感、発汗、緊張がある、少し按じると軟弱や硬結、陥凹、膨隆や痛み（圧痛）が生じる。主に手足にある重要な穴などが用いられる。
Ho	センテシマル・ポテンシー	centesimal potency	100 倍希釈。ストックまたは前のポテンシー１の割合に対して希釈液 99 を加えて希釈振盪する。この振盪を伴った連続希釈の回数でセンテシマル・ポテンシーが決められる。
Hb	セントジョーンズワート	St.John's wort/ Hypericum perforatum	オトギリソウ科の地上部分を乾燥させたもの。古代ギリシアやアメリカ先住民も使用していた。抽出物は軽度のうつ状態を改善させることがヒトで認められている。有効成分はヒペリシン、ヒペリフォリンなど。更年期症状の改善、消炎･鎮痛。安全性２d、相互作用 C。使用中の日光曝露は避ける。
Tm2	臓腑	viscera and bowels	医書では蔵府と記し、機能を重視した記載となっている。蔵は精を蔵する内臓で、府は中空の器で消化･吸収･排泄に関わる。蔵府は五臓六腑や六臓六腑とされ、蔵には肝、心、脾、肺、腎、心包があり、府には胆、小腸、胃、大腸、膀胱、三焦がある。蔵と府には両者に関係がある（表裏関係）。
Tm2	臓腑病証	viscera and bowels disease pattern	臓腑に関する病証。内傷（七情の乱れ、労逸、飲食不節など）により、臓腑の生理機能が失調して起こる病証。臓腑が有する機能が失調により、臓腑に関係する寒・熱や虚・実、気・血・津液の状態に影響を及ぼし特徴的な症状が現れる。また臓腑と経絡は密接に関連しているため、臓腑経絡病証と合わせて判断することもある。
Ar	疎水性	hydrophobic	水と親和性が小さいこと。水と結びつきにくい、水に溶けにくい性質のこと。

タ行

Ay	ダートゥ	dhatu	身体の構成要素。食物が、アグニにより消化・代謝され、7つのダートゥ（サプタダートゥ）が、以下の順に生成される。体液（血漿・乳び）、血液、筋肉、脂肪、骨、骨髄、精液（生殖器官）である。この過程でオージャスが生まれ、健康には、ドーシャバランスを保ち、マラ、ダートゥのはたらきを維持することが重要である。
Tm1	太陰人（たいいんじん）	greater yin person	四象医学の体質の一つで、肝が強く肺が弱い特徴がある。
Ho	体質（たいしつ）	constitution	個人の特有な心理的、身体的な特徴をさすが、ホメオパシーにおいては、病気のときに健康な個人の日常生活の中で受ける刺激や環境に対する反応として記述される。
Ho	体質（たいしつ）レメディ	constitutional remedy	ホメオパシーの処方において、患者の体質に合ったホメオパシー薬。慢性疾患の処方に用いられる。
Hb	大豆	Soy/ Glycine max	マメ科の一年草の種子を食用にする。タンパク含有量が多く、女性ホルモン類似作用をもつイソフラボン類を含む。脂質代謝調整、ホルモン分泌調整、更年期障害、がんリスク低減。長期のサプリメント摂取の安全性は未確立。食事からの摂取は安全である。（https://nccih.nih.gov/health/soy/ataglance.htm）
Tm1	大腸（だいちょう）	large intestine	六つの腑の一つで、小腸から不要な物を受入れ、それを便に変える。
Hb	タイム	Thyme/ T. vulgaris	シソ科イブキジャコウソウ属植物の総称、タチジャコウソウ。香辛料として使用。抗糖尿病作用（αグルコシダーゼ、αアミラーゼ阻害作用あり）、抗菌、去痰、気管支鎮痙作用があるとされる。安全性2b、相互作用A。
Tm1	太陽人（たいようじん）	greater yang person	四象医学の体質の一つで、肺が強く肝が弱い特徴がある。
Tm1	痰（たん）	phlegm	(1) 病気にかかった気道の病的な分泌物；(2) 体にたまった粘稠性の混濁した病理産物で種々の疾患を引き起こす。
Tm1	胆（たん）	gallbladder	六つの腑の一つで、肝と結びついていて胆汁をためて排泄する。
Tm1	痰湿（たんしつ）	phlegm-dampness	湿痰と同様に痰と体内の湿の混合物で疾患を引き起こす。
Tm2	知熱感度測定法（ちねつかんどそくていほう）	thermesthesiometer	手指や足趾の末端にある主に井穴に熱を与えて、熱の感度（知熱感度）を計測し、左右差が現れるところを変動経絡として判断する測定法。この測定により判断した変動経絡に関連する背部兪穴や要穴に、主に皮内鍼、鍼治療を行うと、指端の知熱の左右差が改善され病状も回復する。1950年に赤羽幸兵衛により創案された。

Ay	チャラカ・サンヒター	Charaka Samhita	古典医書の一つ。医学原理が、インド6派哲学をもとに展開され、現在の一般内科的知識を中心に記されている。アグニヴェーシャタントラを原著書とし、その後の長い歴史経過の中での散逸、紛失箇所をチャラカが改編し、以後種々の改訂、追加などがなされた。長寿に関する章から始まる総論をはじめ、8巻120章で構成される。
Tm1	中医学（ちゅういがく）	traditional Chinese medicine/ TCM	全体観と弁証に特色がある中国に起源のある伝統医学。
Tm1	中西医結合（ちゅうせいいけつごう）	integration of traditional Chinese and Western medicine	中国医学と現代西洋医学の重要な見地を融合させ、現代の科学的知識と計測を包含している発展中の中国医学の方法。
Ho	治癒の方向性（ちゆのほうこうせい）	direction of cure	治癒変化の基準。治癒過程①～④の「方向性」変化が認められるとき、患者の状態が改善している。①上から下へ：症状が下方へ進行し減退する②内から外へ：深部の器官からより表層の器官へ③精神的レベルから身体的レベルへ、またより重要な器官からより重要でない器官へ④発症が最も新しい症状からそれ以前へ。
Ho	治癒の法則（ちゆのほうそく）	laws of cure	ホメオパシーによる良好な反応や、回復に向かっての治癒の方向性など、患者の変化に対する経験的な観察。ヘリングによることからヘリングの法則とも呼ばれる。
Hb	朝鮮人参（オタネニンジン）	Ginseng/ Panax ginseng	ウコギ科の多年草の根を薬用に供する。ジンセノシド等のサポニンを含有。アダプトゲン、滋養強壮、新陳代謝促進作用がある。禁高血圧だが、体質に応じて血圧降下作用もあるとされる。安全性は高いが、頭痛、消化器症状などの副作用あり。安全性1、相互作用A。
Ar	超臨界流体抽出法（ちょうりんかいりゅうたいちゅうしゅつほう）	supercritical fluid extraction	加圧した二酸化炭素を溶剤として精油を抽出する方法。低温で抽出できるので成分が損なわれることなく実際の植物に含まれている状態に近い精油を得ることができる。費用がかかるのでまだ一般的ではない。
Tm2	直接灸（ちょくせつきゅう）	direct moxibustion	もぐさを皮膚に直接置いて、燃焼させる灸法。艾の大きさにより局所に第1度～第3度熱傷を生じる。日本では直接灸（有痕灸）に透熱灸、焦灼灸、打膿灸がある。主に透熱灸の小さい艾（糸状大、半米粒大、米粒大）を用い少数であれば、瘢痕ができずに治癒する。同一点に反復や多壮灸では瘢痕治癒をみる。
Ho	治療的アグラベーション（ちりょうてき）	therapeutic aggravation	最類似と考えられるホメオパシー薬が投与された後、現在存在する症状が一時的に悪化すること。よい予後の指標と考えられている。急性疾患では判明できず、慢性疾患の数%程度。通常投与後1週間前後にみられ、その時点でホメオパシー薬の投与は止める。一時的なホメオパシー的副作用ともいえる。
Ar	通経作用（つうけいさよう）	emmenagogue	月経を促し、周期を規則正しくする作用。

Hb	ティートリー	Tea tree/ Melaleuca alternifolia	フトモモ科コバノブラシノキ属の葉から採れる精油を使用する。抗菌、抗真菌、抗ウィルス、消炎、鎮痛、にきびなどに効果があるとされる。外用のみ使用。テルピネン -4- オルが主成分、シネオールの多いものは過敏症を生じる可能性あり。(https://nccih.nih.gov/health/tea/treeoil.htm)
Ar	低温圧搾法	cold pressed	原料となる果実や種子に、熱を加えずに、圧力をかけてオイルを搾り取る方法。
Tm2	鍉鍼	spoon needle	皮膚に刺入しない鍼で、皮膚を触れたり、按じる鍼である。形状は鍼の先端が尖っているもの、丸いものなどがある。経脈を按じたり、摩擦して、気のめぐりをよくするのに用いる。現在では、刺さない鍼として通常の鍼灸臨床で用いられることがあるが割合は少ない。鍉鍼は低刺激であるため、小児や痛みに過敏な人、病気の重症者に用いることができる。『霊枢』九鍼十二原篇にある 9 種類の鍼の一種。
Ay	ディナチャリア	dynacharia	毎日の健康法。または日々の健康的な生活自体。アーユルヴェーダでは個々の体質や体調にあわせた 1 日の過ごし方、各季節の過ごし方をすることで、ドーシャのバランスが調い、オージャスに満ちた生活が送れると考える。
Ho	デシマル・ポテンシー	decimal potency	10 倍希釈。ストックまたは前のポテンシー 1 の割合に対して希釈液 9 を加えて希釈振盪する。この振盪を伴った連続希釈の回数によって、デシマル・ポテンシーが決まる。
Ar	テルペン	terpene	植物の精油に含まれる成分。化学構造はイソプレンを構成単位とする炭化水素。イソプレン単位（C5）の数に応じてモノテルペン（C10）、セスキテルペン（C15）、ジテルペン（C20）などと呼ばれる。
Tm2	電気灸（器械灸）	electro-moxibustion	電気を熱源とする灸法。電気を流して温熱を発生させる。現在は、小型から大型機器までが市販されている。電気灸は火気を使用しないために、灸のように煙や臭い出ず、医療機関などで用いやすい。
Tm2	電気鍼（鍼通電）	electro-acupuncture	鍼を電極として電気刺激を行う方法である。鍼による電極では、電極間の電気抵抗が低くなり、比較的低い電圧で必要な刺激効果を与えられる。主に低周波の鍼通電が用いられ、治療効果は鎮痛、筋緊張の緩和、循環の改善などが期待できる。
Tm1	同綴異義語	homo-orthography	綴りが同じにもかかわらず国や流派等で異なる定義で用いられる術語。例)臓器名(西洋医学と伝統医学で)、方剤名（竜胆瀉肝湯など構成生薬が異なる)、経穴名(合谷など位置が異なる)、生薬名（各国の薬局方で原植物が異なる)、陰・陽（日本漢方、中医学、マクロビオティックで)、虚・実（日本漢方、中医学で)。

Ay	ドーシャ	dosha	パンチャマハブータの要素の、異なる組み合わせで構成される生命エネルギーのこと。ヴァータ・ピッタ・カパという３種類に分類される。病気は、３つのドーシャ（トリドーシャ）のバランスの乱れと考えられる。ヴァータ・ピッタ・カパを身体的ドーシャと呼ぶのに対して、サットヴァ・ラジャス・タマスは精神的ドーシャと呼ばれる。サンスクリット語では本来増えやすいもの、病素の意。
Ar	トータルペイン	total pain	終末期の患者が抱える身体的・精神的・社会的・霊的苦痛を総合した全人的苦痛のこと。
Ar	トリートメント	treatment	キャリアオイルなどを使用して体に触れて行う施術のこと（精油を用いた施術をアロマトリートメントと呼ぶ）。あはき法を考慮してマッサージという言葉は使用しない。
Ay	トリグナ	triguna	ドーシャに影響を与える、3つの心の性質。サットヴァ（純粋性）、ラジャス（動性）、タマス（暗性・惰性）を指す。動性を示すラジャスが増えればヴァータ、ピッタが増大し、惰性を表すタマスが増えればカパが増大する、などの関係性があると考える。
Ay	トリパラー	triphala	３つの果実の意。アーマラキー、ハリータキー、ビビータキーの３つの果実を用いたハーブ。催下法に用いる薬用植物で、すべてのドーシャを鎮静化するとされる。トリパラーの一つであるアーマラキーは、強壮薬・長寿薬としても知られ、古典でも「寿命を与え、老化と病気を抑制し、知力を伸ばし、感覚器官に力をつける」とされる。

ナ行

Tm2	内傷（ないしょう）	internal damage	体内で起こる病因の総称。内傷には、七情の乱れ、飲食不節、労働過度、房事過多などがある。また病態を示す場合もあり、身体の深部や気血、臓腑を損傷した病態をいう。
Tm2	七情（ななじょう）	seven emotions	内傷の病因に属し、喜、怒、思、憂、悲、恐、驚の７種類があり、情緒の総称である。通常は病の原因にならない。しかし、急に強い精神的な刺激や長期にわたって精神的な刺激を受け続け、生理的に耐えられる範囲を超えると、情緒が乱れ、気血や臓腑の機能が失調し、病を引き起こす。
Ar	二酸化炭素抽出法（にさんかたんそちゅうしゅつほう）	carbon dioxide extraction method	超臨界流体抽出法のこと。
Tm1	熱証（ねつしょう）	heat pattern/ syndrome	外感熱邪や陽気の優勢によって引き起こされたパターン／症候群の一般用語で、発熱、熱を嫌い、喜冷、口渇、顔面紅潮、怒りっぽい、いらいら、濃い黄色の痰や鼻汁、濃い色の少量の尿、便秘、黄色苔、紅舌と速い脈拍がみられる。

Ar	ノート	note	精油の香りの持続時間によりトップノート（数時間）、ミドルノート（数日）、ベースノート（数日以上）の３つに分類される。

ハ行

Ho	ハーネマン、クリスチャン・フリードリッヒ・サミュエル	Hahnemann, Christian Friedrich Samuel	ドイツ人医師、ホメオパシーの創始者（1755-1843）。
Tm1	肺（はい）	lung	呼吸を制御する横隔膜より上の胸腔に位置する一対の器官で、気を制御し、宣散粛降、水の流れを調整し、鼻と皮膚に密接に影響する。
Hb	ハイビスカス	Hibiscus/ Hibiscus sabdariffa	アオイ目アオイ科の下位分類たるフヨウ属の総称。観賞用および花をお茶に供する。消化促進、緩下、利尿、降圧作用があるとされる。安全性１、相互作用 A。アセトアミノフェンとの相互作用の可能性あり。（https://www.webmd.com/vitamins/ai/ingredientmono-211/hibiscus）
Hb	パッションフラワー	Passion flower/ Passiflora caerulea	トケイソウ科、トケイソウ属植物の総称。地上部分をハーブティなどに用いる。鎮静、鎮痙、不眠、過敏性腸症候群に効果があるとされる。安全性は高いが、錯乱や過剰な眠気を生じることあり。妊娠中は禁（子宮収縮誘発の可能性）。安全性１、相互作用 A。
Ar	パッチテスト	patch test	アロマセラピーでは、精油を使用する前に希釈した精油を皮膚に貼付してアレルギーの有無を確認する。賛否両論あるが不要と考える医師も多い。
Tm2	鍼（はり）	acupuncture	古代中国で体系化され、伝承された医術の一つ。現代の鍼には、主に刺す鍼が用いられる。小児や過敏な成人には皮膚を接触、按圧、擦過する鍼がある。また鍼に電気を流す通電法や脈絡を刺す方法もある。
Tm2	鍼鎮痛（はりちんつう）	acupuncture analgesia	鍼を施術することにより、痛みを抑制して鎮痛効果を得ることをいう。鍼刺激が侵害刺激として皮膚や筋にある受容器を経て感覚神経を刺激し、脊髄を介して脳に伝達され、脳幹、脊髄を経て下行性疼痛抑制系（内因性モルヒネ様物質が放出されること）により脊髄レベルで求心性入力を遮断することにより、鎮痛効果が出現する。
Hb	バレリアン（セイヨウカノコソウ）	Valerian/ Valeriana officinalis	オミナエシ科カノコソウ属の多年生植物の根をハーブティとして用いる。欧州では根や茎を不眠症や不安に使用。伝統療法として使用するが、鎮静、鎮痙、不眠などの効果については確固たるエビデンスはない。めまいや胃部不快感などの可能性あり。安全性１、相互作用 B。
Ar	瘢痕形成作用（はんこんけいせいさよう）	cicatrisant	瘢痕組織が生じて治癒を促進する作用。

Ay	パンチャカルマ	panca karma	5つの方法・手技の意で、アーユルヴェーダにおける浄化療法（ショーダナ）のこと。催吐法、催下法、浣腸法、経鼻法、瀉血法の5つを指す。過剰なドーシャ、未消化物（アーマ）、老廃物（マラ）など体内に滞る汚れを流しだす療法。前処置、主処置となるパンチャカルマ、後処置と系統立てて行う。
Ay	パンチャマハブータ	panca maha bhuta	自然環境や全ての物質を構成する五大元素（パンチャは5の意）。5つの要素（空、風、火、水、地）を指す。私たちの体質や性質もこれらの要素で成り立つとされ、生きていくために必要なエネルギーを与えている。
Tm1	脾（ひ）	spleen	横隔膜の下の中焦に位置して食物を運搬し変化させ、昇清や血管の中の血の流れを維持し、四肢や筋肉と密接に影響する。
Hb	ヒース	Erica canaliculata/ Erica vulgaris	ツツジ科エリカ属の植物の総称。花の部分をハーブとして用いられるのはジャノメエリカ／エリカ。アルブチンがメラニン生成を抑制するとされる。美白、尿路感染、抗菌、利尿作用があるとされる。妊娠・授乳中は安全性未確立。（https://www.webmd.com/vitamins/ai/ingredientmono-489/heather）
Ay	ピッタ	pitta	火のエネルギー。パンチャマハブータのうち、火と水の要素により形成される。ピッタの作用により消化がすすみ、熱が作られるため、身体の変化、代謝などを司る。食物以外に、情報の消化にも関係する。温かさ、鋭さなどを特徴とし、その乱れにより、内臓・血液疾患、皮膚病などをきたす。冷性を持つギーが効果的な対処法といわれる。
Tm2	皮内鍼（ひないしん）	intradermal needle	皮内に刺す短い小さな鍼。鍼体の長さは2～9mm、鍼体の直径は0.14mmと0.16mmである。鍼柄は薄い長方形（平軸）や円形のリング状（9の字）の形がある。鍼の材質はステンレス綱金が主に用いられる。赤羽幸兵衛によって発案された。
Tm1	表証（ひょうしょう）	exterior pattern/ syndrome	表証の初期に起こるパターン／症候群の一般用語で、急に発症し、寒さや風を嫌悪し、発熱、頭痛、全身性の痛み、舌白苔、浮脈が特徴である。
Tm2	病証（びょうしょう）	disease pattern	症状や症候群に脈診や舌診などの診察所見を含めた病状を現したもの。病名とは異なる。
Tm2	標治法（ひょうちほう）	treat the tip	治療原則の一つ。日本の経絡治療では局所の経絡の流れをよくするための治療法。症状の発生部位における局所・その周辺にある硬結・圧痛などに対して、直接施術することをいう。対義語に本治法がある。中医学では病の本標を明らかにし、治療の先･後、緩･急、主･次を決定して施術する。
Tm1	表裏（ひょうり）	exterior and interior	(1) 体の外側の部分（皮膚、体毛、肉と表面的な経絡／チャネル）と体の内側部分（腸と内臓、気、血液と骨髄）; (2) 八綱弁証のうちの二つで外邪の深さを示す。

Hb	フェンネル（ウイキョウ）	Foeniculum vulgare	セリ科の植物の種子を使用。ハーブティや料理に用いられる。ケルセチン等のフラボノイドを含有。駆風、去痰、疝痛。安全性１、相互作用 A。
Tm1	腹診（ふくしん）	abdominal examination	胸部と腹部の病的状態を決めるための診察方法で、他の検査方法と組み合わせて触れたり圧迫したりする。
Ay	プラクリティ	prakrti	アーユルヴェーダにおける体質を指す。3つのドーシャのいずれがバランスを崩しやすいかを表す。さらに受精時から決められた体質（ジャンマ・プラクリティ）、出生後に後天的要因で決まる体質（デハ・プラクリティ）がある。
Hb	ブラックコホシュ	Cimicifuga racemosa	キンポウゲ科植物の根を使用する。トリテルペン誘導体やイソフラボンを含有。ホルモン分泌調整、鎮静、月経前症候群に効果ありとされる。安全性２b（禁妊娠中）、相互作用 A。
Ho	プルービング	proving	①健康なボランティアにホメオパシー薬を投与してレメディ像を決める実験的手順。ホメオパシー病原性試験（homeopathic pathogenetic trial）ともいう。②病気治療としてホメオパシー薬服用後に、病気の症状と違い新しい症状が出現し、その新しい症状が服用したホメオパシー薬像である場合の現象。ホメオパシー的副作用。
Hb	ペパーミント	Mentha piperita	シソ科の植物の葉を使用。フラボノイド、タンニン、カフェー酸、グロロゲン酸などを含有。賦活→鎮静、鎮痙、駆風、利胆、制吐作用などがあるとされている。安全性１、相互作用 A。
Tm1	膀胱（ぼうこう）	bladder	六つの腑の一つで、尿をためて排泄する。
Ar	芳香蒸留水（ほうこうじょうりゅうすい）	floral water	水蒸気蒸留法で精油を抽出するときに得られる水溶性の芳香成分を含む水。
Ho	母液（ぼえき）	mother tincture	ホメオパシー薬の製造開始の液体。適切な原料物質の抽出物を水－エタノール混合液に混ぜることで作られる調合液。
Tm2	補瀉（ほしゃ）	supplementation anddraining	鍼灸治療の治療原則の一つ。正気が不足している場合に補法で正気を補い、病邪が侵襲した際に瀉法で邪気を除去する。
Ho	ホメオパシー	homeopathy	健康な人に投与した時の影響が、個々の患者における病気の徴候と一致する物質を調合したものを用いる治療法。症状全体をひとつのパターンとしてとらえ、それに最も類似のパターンを持つホメオパシー薬によって自然治癒過程に働きかける。約 200 年前、サミュエル・ハーネマンが体系化した。世界 80 カ国以上で用いられている。
Ho	ホメオパシー薬（やく）	homeopathic medicine	ホメオパシーの処方に使われる薬。レメディ remedy（re: 再び , medy: 治癒する）という意味。

Tm2	本治法（ほんちほう）	treat the root	治療原則の一つ。日本の経絡治療では経絡の異常を調整するために必要な選経・選穴、手技などを含めた治療法を示す。対義語に標治法がある。病の本（根本）を追求し、本を治することが重要としている。一般的に本治法と標治法と合わせることが多い。中医学では病の本標を判断して、治療の先後、緩急、主従を決めて施術する。

マ行

Hb	マイタケ	Grifola frondosa	ブナ科の木の根元に自生するが、栽培品も多い。食用として一般的。脂質・糖代謝調整、腸内細菌叢改善、免疫賦活、抗ウィルス、アポトーシス誘導、がん予防を標榜しているが、ヒトでのエビデンスは確立していない。安全性１、相互作用 A。
Hb	マカ	Maca/ Lepidium meyenii	アブラナ科植物の根茎を使用。滋養強壮、生殖能力向上（健康な男性で一部に効果が認められるが、さらなる検討が必要である）。安全性１、相互作用 A。
Ho	マテリア・メディカ	material medica	ホメオパシーではホメオパシー薬の性質やその効用で、ホメオパシー病原性試験（プルーイング）や臨床データ、毒性学、自然科学に基づくデータなどから構成されている。
Ay	マラ	mala	身体を汚す、身体老廃物を指す。食物の消化により身体を構成する要素（ダートゥ）が作られる過程で生成される。特に便（プリーシャ）、尿（ムートラ）、汗（スヴェータ）などの老廃物は重要で、マラ自体も身体を維持する要素と考える。
Hb	マルベリー	Mulberry/ Morus alba	クワ科植物の葉に含有される成分 DNJ（デオキシノジリマイシン）に、α グルコシダーゼ阻害作用があり、糖尿病の予防に用いられる。腸内細菌活性化による便秘の改善が期待される。安全性１、相互作用 A。
Tm2	未病（みびょう）	before disease	未病とは、疾病の発症する前の状態のこと。健康と病気の間である半健康状態のこと。自覚はないが、なんらかの症状がでている状態のことなどの意味もある。治未病（未病を治する）とは、病になる前の軽い症状に対して治療を行うことで、病になることを防ぐこと。最近になって疾病の予防管理という意味も付加された。
Tm1	脈診（みゃくしん）	pulse diagnosis	診断のための脈の診察方法。
Hb	ミルラ（没薬）	Myrrh/ Commiphora myrrha	カンラン科落葉樹のゴム樹脂を乾燥させたものを用いる。古くから香として焚いて使用されていた。抗菌、消炎、収斂、通経作用、子宮収縮作用があるため、妊娠中は使用禁止。CYP2D の阻害作用が in vitro で認められる。安全性２b、相互作用 A。

Hb	メディカルハーブ	Medical Herb	自然の植物を体調不良時に用いることは古くから行われてきた。天然物資を治療に用いる自然療法で使用するハーブをメディカルハーブと呼んで、一般的なハーブと区別している。
Hb	メリロート（シナガワハギ）	Merilot	マメ科シナガワハギ属の植物の葉や花から抽出されたエキスを食品（サプリメント）として使用する。クマリンなどの成分を含有。従ってワルファリン等との相互作用が予想される。静脈還流・リンパ液循環促進こむら返り、浮腫に効果があるとされる。術後の浮腫や出血斑を改善した（Aesthetic Plast Surg. 2008 Jul; 32（4）: 599-603. doi: 10.1007/s00266-008-9149-3. Epub 2008 Apr 17.）
Su	メンデルランダム化解析（かかいせき）	Mendelian randomization	観察研究では、因果関係の立証のために介入試験が必要とされる。メンデルランダム化解析では、観察研究のデータを、遺伝子多型に基づいてランダム化し、形質との関連に交絡要因を含まないことや逆の因果関係を持たないことから、遺伝子多型を操作変数として形質に影響を及ぼす因子との関連を推定できると考える。
Tm2	艾（もぐさ）	moxa	ヨモギ、オオヨモギの葉裏にある白い毛を集めて、艾を作る。艾は灸治療に用いる。ヨモギを夏に刈り入れ、その葉を収集し、乾燥させた葉を石臼で挽く。ふるいで夾雑物を取り除き、長時間かけて精製する。石臼の挽き方や夾雑物の混入の程度によって品質が分けられる。モグサの芳香は精油に含まれるシネオールによる。
Ho	モダリティ	modality	ホメオパシーにおいては、臨床症状、兆候、病態やそれらのレベルの強さや重症度に影響を与えるような要素を意味する。悪化する要素と改善する要素がある。

ヤ行

Tm1	薬食同源（やくしょくどうげん）	homogeny of drug and food	食物が薬効を持つという考え。
Tm1	薬膳（やくぜん）	Meals as dietary therapy based on traditional Chinese medicine	本来は中医学の方剤学に基づいて一人ひとりの証に合わせた食事を指したが、漢方薬を混ぜた食事を指すこともある。
Su	有害事象（ゆうがいじしょう）	Adverse Event	薬物・医薬品を投与された患者・被験者に生じた、すべての好ましくない、もしくは意図しない症状や徴候、病態をさす。なお、薬物との因果関係の有無は問わない。
Hb	ユーカリ	Eucalyptus	オーストラリア南東部や南西部、タスマニア島におもに分布するが現在は世界各国で栽培される。オーストラリア先住民の民間薬。葉を水蒸気蒸留して得られる精油は直接大量摂取で毒性を示す。去痰、抗菌　風邪・気管支炎。安全性１、相互作用 A。

Tm1	陽（よう）	yang	中国の哲学における正反対の二つの宇宙の創造的な力のうち、光・暖かさ・乾燥・活性などによって特徴づけられる男性的・活動的・陽的な原理で、二つの力が融合すると知覚できる世界を生む。
Tm1	陽虚（ようきょ）	yang deficiency	体の陽気の不足によって特徴づけられる病理学的状態で、低下した機能、減少した代謝、減少した体の反応ならびに不足―冷え徴候を示す；漢方医学では「陽」と「実」は独立して理解されている。
Tm1	陽虚証（ようきょしょう）	yang deficiency pattern/ syndrome	陽気の不足によって生じるパターン／症候群で、体を温めることができず、力を出せず、冷えに弱く、四肢が冷え、運動しなくても発汗し、下痢、清澄な尿を長く排泄し、青白い舌で、深く弱い脈がみられる；漢方医学では実パターンを伴う陽パターンと理解されている。
Ar	溶剤抽出法（ようざいちゅうしゅつほう）	solvent extraction method	ローズ、ジャスミン、オレンジなど花から（熱や水分によって損なわれる）精油を抽出するとき採取に用いる有機溶剤を使った抽出方法。この方法で採取された精油をアブソリュートと呼ぶ。
Tm1	陽証（ようしょう）	yang pattern/ syndrome	陽の性質の病原に起因する病的状態と同様に興奮、機能亢進、持続的、はっきりとした徴候または外向きで上向きの症状を伴う体表の熱と過剰パターン／症候群の総称。

ラ行

Hb	ラベンダー	Common lavender/ Lavandula officinalis	シソ科の芳香性のハーブであり、交配種や栽培変種が多種存在。芳香剤や食用として用いられてきた。特定のラベンダーオイル成分が抗不安作用を示すと示唆される。抗炎症作用、不眠、神経性胃炎。安全性１、相互作用 A。
Hb	リコリス（甘草）	Lycoris/Glycyrrhiza	根を乾燥させたものを生薬として用い、多くの漢方製剤に含まれる。エキスや粉末を甘味料として醤油などに用いる。甘味成分としては、グリチルリチン、ブドウ糖、ショ糖などが含まれる。鎮咳、去痰、消炎、抗アレルギー、ステロイド用作用、抗ウィルス作用があるとされる。矯味（甘味）に用いる。安全性２b、２d、相互作用 B。大量摂取により偽アルドステロン症の可能性あり。
Tm1	裏証（りしょう）	interior pattern/ syndrome	たとえば、腸・内臓、気・血、骨髄などの体の内部に病気が存在することパターン／症候群の一般用語。
Tm2	良導絡治療（りょうどうらくちりょう）	ryodoraku therapy	皮膚通電抵抗に注目して皮膚の交感神経の興奮性を数値的にとらえ、その異常な興奮性を全身的および局所的に正常化する治療法をいう。日本医師の中谷義雄博士が良導点や反応良導点を発見し、その理論に則って構築された治療法である。

Ho	類似の原則	similia principle	ホメオパシーの基本原理。ある物質が健康な人に引き起こす症状と類似の症状を示している患者に対して、その物質が治療に使われる。ラテン語の similia similibus curentur（類似が類似を治す）と表現される。
Hb	ルイボス	Rooibos/ Aspalathus linearis	南アフリカで採取される灌木の葉を乾燥したものを、茶として供する。多種類のフラボノイドを含む。キサンチンオキシダーゼ阻害効果が基礎実験で示されている。抗酸化、代謝促進、鎮痙作用があるとされる。おおむね安全。（https://pfaf.org/user/Plant.aspx?LatinName=Aspalathus+linearis）
Ho	レパートリー	repertory	主に症状と関連したホメオパシー薬とマテリア・メディカに照らし合わせた体系的な相互参照辞典。症状は項目（ルブリック）ごとに記載され、その各項目はさらに詳しく分類される。それらの各項目にマテリア・メディカに記載されている症状に該当するホメオパシー薬が、重要度の高い順に列記される。
Ho	レパートリゼーション	repertorisation	ホメオパシーの症例分析において処方するホメオパシー薬選択のためにレパートリーを用いて行う過程。
Ho	レメディ像	remedy picture	ホメオパシー薬像（drug picture）ともいう。ホメオパシー薬のマテリア・メディカでの特徴的な臨床像である。プルービングによって得られた実験的症状が主で、精神的・全身的・局所的症状や徴候、モダリティ、病理的変化などから構成されている。
Hb	レモングラス	Lemon Grass/ Cymbopogon citratus	名称の由来はレモンの香味成分のシトラールを含有するため。熱帯から亜熱帯に分布するイネ科の多年草で、アジア料理などに香りづけとして使用。葉と茎からとれる精油は香料や合成ビタミン A の原料、防虫剤として利用されている。健胃、駆風、抗菌、矯味矯臭。安全性 1、相互作用 A。子宮収縮作用があるとされるため、妊婦には使わない。
Hb	ローズヒップ	Rose Hips	バラ科バラ属（Rosa L.）の果実。ジャムやお茶など食用に使用。緩下作用を示す。（生のもの）ビタミン C が豊富、変形性関節症の症状緩和。安全性 1、相互作用 A。
Hb	ローズマリー	Rosemary/ Rosmarinus officinalis	シソ科に属する常緑性低木の葉を香辛料として使用。生薬は「迷迭香」。シネオールやカンファー等を含む。抗酸化、消化促進、血行促進、強心、不安緊張を和らげる。外用でリウマチ治療の補助。子宮刺激作用あり、妊婦には使用を避ける。安全性 1、相互作用 A。
Tm2	六淫	six excesses	外感の病因に属し、風、寒、暑、湿、燥、火の 6 種類があり、病邪の総称である。主に季節や気候の変化で、六気（風・寒・暑・湿・燥・火）が生じる。季節や気候の異常、居住や労働の環境（温度、湿度）の異常により、六気の変化が過剰または不足することで、人体の正気不足や抵抗力の低下を引き起こし、病を発症させる。

Su	ロコモティブ症候群（しょうこうぐん）	locomotive syndrome	ロコモティブ症候群（ロコモティブシンドローム、ロコモ：運動器症候群）は、運動器の障害による移動機能の低下した状態。加齢に伴う筋力低下、関節や脊椎の病気、骨粗しょう症等で運動器の機能が衰え、要支援要介護の状態あるいはそのリスクが高い状態。日本整形外科学会が提唱し、国内でしか通用しないガラパゴス用語。

用語別索引

アロマセラピー（Ar）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	アロマセラピー	aromatherapy	2
	エストロゲン	estrogen	3
	エッセンシャルオイル	essential oil	3
	エフルラージュ	effleuraga	4
カ行	キャリアオイル	carrier oil	8
	グレープシードオイル	grapeseed oil	8
	血液脳関門（けつえきのうかんもん）	blood-brain barrier	9
	ココナッツオイル	coconut oil	10
	小麦胚芽油（こむぎはいがゆ）	wheatgerm	10
サ行	揉捏法（じゅうねつほう）	kneading	12
	振動法（しんどうほう）	vibration	13
	親油性（しんゆせい）	lipophilic	13
	水蒸気蒸留法（間接法）（すいじょうきじょうりゅうほう かんせつほう）	water distillation	14
	水蒸気蒸留法（直接法）（すいじょうきじょうりゅうほう ちょくせつほう）	steam distillation	14
	スクワラン	squalane	14
	精油（せいゆ）	essential oil	14
	疎水性（そすいせい）	hydrophobic	15
タ行	超臨界流体抽出法（ちょうりんかいりゅうたいちゅうしゅつほう）	supercritical fluid extraction	17
	通経作用（つうけいさよう）	emmenagogue	17
	低温圧搾法（ていおんあっさくほう）	cold pressed	18
	テルペン	terpene	18
	トータルペイン	total pain	19
	トリートメント	treatment	19
ナ行	二酸化炭素抽出法（にさんかたんそちゅうしゅつほう）	carbon dioxide extraction method	19
	ノート	note	20
ハ行	パッチテスト	patch test	20
	瘢痕形成作用（はんこんけいせいさよう）	cicatrisant	20
	芳香蒸留水（ほうこうじょうりゅうすい）	floral water	22
ヤ行	溶剤抽出法（ようざいちゅうしゅつほう）	solvent extraction method	25

アーユルヴェーダ（Ay）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	アーマ	ama	1
	アーユルヴェーダ	Ayurveda	1

	アグニ	agni	1
	アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター	Ashtanga Hrdayam Samhita	1
	アビヤンガ	abhyanga	1
	インドリヤ	indriya	2
	ヴァータ	vata	3
	ヴィクリティ	vikrti	3
	オージャス	ojas	4
カ行	カパ	kapha	6
	ガンドゥーシャ	gandusa	6
	ギー	ghee	7
	クシャーラ・スートラ	kshara sutra	8
サ行	シャーラーキャ・タントラム	shalakya tantram	12
	シローダーラ—	shirodhara	13
	スウェーダナ	svedana	14
	スシュルタ・サンヒター	Sushruta Samhita	14
	スロータス	srotas	14
タ行	ダートゥ	dhatu	16
	チャラカ・サンヒター	Charaka Samhita	17
	ディナチャリア	dynacharia	18
	ドーシャ	dosha	19
	トリグナ	triguna	19
	トリパラー	triphala	19
ハ行	パンチャカルマ	panca karma	21
	パンチャマハブータ	panca maha bhuta	21
	ピッタ	pitta	21
	プラクリティ	prakrti	22
マ行	マラ	mala	23

カイロプラクティック（Ch）

日本語名	英文名	ページ
アジャストメント	adjustment	1
カイロプラクター	chiropractor	5
カイロプラクティック	chiropractic	5
可動触診（かどうしょくしん）	motion palpation	5
スラスト	thrust	14
静的触診（せいてきしょくしん）	static palpation	14
脊椎（せきつい）マニピュレーション	spinal manipulation	15

	脊椎モビリゼーション	spinal mobilization	15

ホメオパシー（Ho）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	アイソパシー	isopathy	1
	アロパシー	allopathy	1
	オルガノン	Organon	5
カ行	活性化	potentisation	5
	キナ皮の実験	cinchona bark experiment	7
	奇妙で、稀な、特有の症状	strange, rare and paticuar symptoms(SRP)	7
	混合レメディ	combination remedies	10
	コンプリート・シムプトム	complete symptom	10
サ行	最小限の投与量	minimum dose	11
	最類似	simillimum	11
	従来の医療	conventional medicine	12
	症状の階層性	hierarchy of symptoms	12
	振盪	succession	13
	生命力	life force (vital force)	14
	センテシマル・ポテンシー	centesimal potency	15
タ行	体質	constitution	16
	体質レメディ	constitutional remedy	16
	治癒の方向性	direction of cure	17
	治癒の法則	laws of cure	17
	治療的アグラベーション	therapeutic aggravation	17
	デシマル・ポテンシー	decimal potency	18
ハ行	ハーネマン、クリスチャン・フリードリッヒ・サミュエル	Hahnemann, Christian Friedrich Samuel	20
	プルービング	proving	22
	母液	mother tincture	22
	ホメオパシー	homeopathy	22
	ホメオパシー薬	homeopathic medicine	22
マ行	マテリア・メディカ	material medica	23
	モダリティ	modality	24
ラ行	類似の原則	similia principle	26
	レパートリー	repertory	26
	レパートリゼーション	repertorisation	26
	レメディ像	remedy picture	26

ハーブ（Hb）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	アメリカニンジン	Panax quinquefolius	1
	イチョウ	Ginkgo biloba	2
	ウコン	Curcuma long/ Turmeric	3
	エキナセア	Echinacea purpurea	3
	エゾウコギ（シベリアニンジン）	Eleutherococcus senticosus	3
	エフェドラ（麻黄）	Ephedra	4
	オリーブ	Olive/Olea europaea	5
カ行	ガーリック	Garlic/Allium sativum	5
	カイエンペッパー	Cayenne pepper/Capsicum frutescens	5
	カバ（カヴァ）	Cava/Piper methysticum	5
	クミン	Cuminum cyminum L.	8
	クランベリー	Cranberry/ Vaccinium macrocarpon	8
	クローブ	Syzygium aromaticum/ Clove	8
	コンフリー	Symphytum officinale/ Confrey	10
サ行	サイリウム（車前子）	Plantago psyllium	11
	サフラン	Saffran/ Crocus sativus	11
	シナモン	Cinnamomum	11
	ジャーマンカモミール	German chamomile/ Matricaria recutita	12
	ジンジャー（生姜）	Ginger/ Zingiber officinale	13
	セージ	Common sage/ Salvia officinalis	14
	セントジョーンズワート	St.John's wort/ Hypericum perforatum	15
タ行	大豆	Soy/ Glycine max	16
	タイム	Thyme/ T. vulgaris	16
	朝鮮人参（オタネニンジン）	Ginseng/ Panax ginseng	17
	ティートリー	Tea tree/ Melaleuca alternifolia	18
ハ行	ハイビスカス	Hibiscus/ Hibiscus sabdariffa	20
	パッションフラワー	Passion flower/ Passiflora caerulea	20
	バレリアン（セイヨウカノコソウ）	Valerian/ Valeriana officinalis	20
	ヒース	Erica canaliculata/Erica vulgaris	21
	フェンネル（ウイキョウ）	Foeniculum vulgare	22
	ブラックコホシュ	Cimicifuga racemosa	22
	ペパーミント	Mentha piperita	22
マ行	マイタケ	Grifola frondosa	23
	マカ	Maca/ Lepidium meyenii	23

	マルベリー	Mulberry/ Morus alba	23
	ミルラ（没薬）	Myrrh/ Commiphora myrrha	23
	メディカルハーブ	Medical Herb	24
	メリロート（シナガワハギ）	Merilot	24
ヤ行	ユーカリ	Eucalyptus	24
ラ行	ラベンダー	Common lavender/ Lavandula officinalis	25
	リコリス（甘草）	Lycoris/ Glycyrrhiza	25
	ルイボス	Rooibos/ Aspalathus linearis	26
	レモングラス	Lemon Grass/Cymbopogon citratus	26
	ローズヒップ	Rose Hips	26
	ローズマリー	Rosemary/Rosmarinus officinalis	26

東洋医学（Tm1）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	胃（い）	stomach	2
	医食同源（いしょくどうげん）	homogeny of medicine and food	2
	陰（いん）	yin	2
	飲（いん）	retained fluid	2
	陰虚（いんきょ）	yin deficiency	2
	陰虚証（いんきょしょう）	yin deficiency pattern/ syndrome	2
	陰証（いんしょう）	yin pattern/syndrome	2
	瘀血（おけつ）	static blood	4
カ行	肝（かん）	liver	6
	韓医学（かんいがく）	traditional Korean medicine	6
	寒証（かんしょう）	cold pattern/ syndrome	6
	寒熱（かんねつ）	cold and heat	6
	漢方（かんぽう）、漢方医学（かんぽういがく）	Kampo medicine	6
	気（き）	qi, chi	6
	気虚（ききょ）	qi deficiency	7
	気滞（きたい）	qi stagnation	7
	虚（きょ）	deficiency	8
	虚証（きょしょう）	deficiency pattern/ syndrome	8
	血（けつ）	blood	9
	血瘀（けつお）	blood stasis	9
	血虚（けっきょ）	blood deficiency	9
	五行（ごぎょう）	five phases	10
	五行学説（ごぎょうがくせつ）	five phases theory	10

	後世派（ごせいは）	Gosei school	10
	古方派（こほうは）	Koho school	10
サ行	三焦（さんしょう）	triple energizers	11
	四象医学（ししょういがく）	four-constitution medicine	11
	実（じつ）	excess	11
	実証（じつしょう）	excess pattern/ syndrome	11
	証（しょう）	pattern/syndrome	12
	少陰人（しょういんじん）	lesser yin person	12
	小腸（しょうちょう）	small intestin	12
	少陽人（しょうようじん）	lesser yang person	13
	心（しん）	heart	13
	腎（じん）	kidney	13
	津液（しんえき）／水（すい）	fluid and humor	13
	心包（しんぽう）	pericandium	13
	精（せい）	essence	14
	整体観念（せいたいかんねん）	holism	14
タ行	太陰人（たいいんじん）	greater yin person	16
	大腸（だいちょう）	large intestine	16
	太陽人（たいようじん）	greater yang person	16
	痰（たん）	phlegm	16
	胆（たん）	gallbladder	16
	痰湿（たんしつ）	phlegm-dampness	16
	中医学（ちゅういがく）	traditional Chinese medicine/ TCM	17
	中西医結合（ちゅうせいいけつごう）	integration of traditional Chinese and Western medicine	17
	同綴異義語（どうてついぎご）	homo-orthography	18
ナ行	熱証（ねつしょう）	heat pattern/ syndrome	19
ハ行	肺（はい）	lung	20
	脾（ひ）	spleen	21
	表証（ひょうしょう）	exterior pattern/syndrome	21
	表裏（ひょうり）	exterior and interior	21
	腹診（ふくしん）	abdominal examination	22
	膀胱（ぼうこう）	bladder	22
マ行	脈診（みゃくしん）	pulse diagnosis	23
ヤ行	薬食同源（やくしょくどうげん）	homogeny of drug and food	24
	薬膳（やくぜん）	Meals as dietary therapy based on traditional Chinese medicine	24

	陽（よう）	yang	25
	陽虚（ようきょ）	yang deficiency	25
	陽虚証（ようきょしょう）	yang deficiency pattern/ syndrome	25
	陽証（ようしょう）	yang pattern/syndrome	25
ラ行	裏証（りしょう）	interior pattern/syndrome	25

鍼灸（Tm2）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	飲食不節（いんしょくふせつ）	dietary irregularities	2
	陰陽（いんよう）	yin and yang	3
カ行	外感（がいかん）	external contraction	5
	間接灸（かんせつきゅう）	indirect moxibustion	6
	奇経（奇経八脈）（きけい　きけいはちみゃく）	eight extra meridians	7
	奇穴（きけつ）	extra point	7
	気血水（津液）病証（きけつすい　しんえき　びょうしょう）	qi-blood-fluid-humor disease pattern	7
	灸（きゅう）	moxibustion	8
	虚実（きょじつ）	deficiency and excess	8
	経筋病証（けいきんびょうしょう）	meridian sinew disease pattern	9
	経穴（けいけつ）	meridian point	9
	経脈病証（けいみゃくびょうしょう）	meridian disease pattern	9
	経絡（けいらく）	meridian and collateral	9
	経絡治療（けいらくちりょう）	meridian treatment	9
	毫鍼（ごうしん）	filiform needle	10
サ行	四診（ししん）	four examinations	11
	十二経筋（じゅうにけいきん）	twelve meridian sinew	12
	十二経脈（正経）（じゅうにけいみゃく　せいけい）	twelve meridians	12
	腧穴（しゅけつ）	acupuncture points	12
	小児鍼（しょうにしん）	infant needle	13
	神（しん）	mind	13
	鍼管（しんかん）	needle with tube	13
	切経（せっけい）	meridian palpation	15
	切穴（経穴診）（せっけつ　けいけつしん）	acupuncture point palpation	15
	臓腑（ぞうふ）	viscera and bowels	15
	臓腑病証（ぞうふびょうしょう）	viscera and bowels disease pattern	15
タ行	知熱感度測定法（ちねつかんどそくていほう）	thermesthesiometer	16
	直接灸（ちょくせつきゅう）	direct moxibustion	17
	鍉鍼（ていしん）	spoon needle	18

	電気灸（器械灸）	electro-moxibustion	18
	電気鍼（鍼通電）	electro-acupuncture	18
ナ行	内傷	internal damage	19
	七情	seven emotions	19
ハ行	鍼	acupuncture	20
	鍼鎮痛	acupuncture analgesia	20
	皮内鍼	intradermal needle	21
	病証	disease pattern	21
	標治法	treat the tip	21
	補瀉	supplementation anddraining	22
	本治法	treat the root	23
マ行	未病	before disease	23
	艾	moxa	24
ラ行	良導絡治療	ryodoraku therapy	25
	六淫	six excesses	26

サプリメント・機能性食品・健康食品（Su）

	日本語名	英文名	ページ
ア行	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律	Act on Securing Quality, Efficacy and Safety of Products Including Pharmaceuticals and Medical Devices	2
	栄養機能食品	Foods with Nutrient Function Claims（FNFC）	3
	栄養補助食品健康教育法（DSHEA）	Dietary Supplement Health and Education Act of 1994	3
	エピジェネティクス	epigenetics	4
	オーラルフレイル	oral frailty	4
	オメガ３系必須脂肪酸	omega-3 essential fatty acid	4
	オメガ６系必須脂肪酸	omega-6 essential fatty acid	4
カ行	カロテノイド	carotenoid	6
	機能性食品	functional food	7
	機能性表示食品	Foods with Function Claims	7
	健康寿命	healthy life expectancy	9
	健康食品	health foods	10
マ行	メンデルランダム化解析	Mendelian randomization	24
ヤ行	有害事象	Adverse Event	24
ラ行	ロコモティブ症候群	locomotive syndrome	27